



# のうえん すくすく農園だより

令和1年度(2019年度) 豊中市立箕輪小学校 藤本・高木 NO. 5

## 3・5年生すくすく農園教室



5月28日(火)2・3時間目に5年生と3年生に向けて、すくすく農園教室を開きました。すくすく農園の『すくすく』は、箕輪小のみなさんと農園の野菜たちが『すくすく』育つようにつけられたものです。今年も農園でお世話になっている橋本さんと福本さんに来ていただき、世界三大穀物である、米・とうもろこしについてお話をいただきました。

※世界三大穀物とは…世界でおもに主食として食べられている三大穀類(小麦・とうもろこし・米)のこと。

5年生は、社会科と総合の学習で米について学んでいきます。6月10日に田植えを予定していますが、その事前授業としてすくすく農園教室で米作りについて学びました。全て手作業で行っていた昔の農業の様子と近代農業の様子を映像で見せていただき、その違いを知りました。(機械化されている米作りですが、雑草をぬく作業については昔も今も同じだそうです。)また、収穫までの長い時間をかけて、大変な作業と台風などの自然災害との戦いなどを乗り越えて、米ができていく過程

を教えてくださいました。米という漢字は『八十八』の文字からつくられたといわれており、お米ができるまでに88回もの手間がかかる、という意味があります。あたりまえのように食べている“ごはん”は、たくさんの手間暇をかけて作られてきたということを、忘れずに、食べ物すべて無駄にしない気持ちを一人ひとりもてる

といいですね。5年生のみなさん！いよいよ田植えです！



5年生に続き、3年生がとうもろこしのお話を聞きました。とうもろこしの花は2種類(おしべとめしべ)あり、ふさふさの毛のようなものがめしべです。めしべにおしべの花粉がつき、受粉すると実ができます。めしべと実はつながっているのです、受粉したふさふさとした毛がたくさんあるとうもろこしは、実がたくさんついているということです。とうもろこしの実はどれも偶数(2で割り切れる数)であるということなど、とうもろこしの不思議についても学びました。

世界のなかで、とうもろこしを輸入している(外国から買っている)国の第一位は日本です。たくさんとうもろこしを買っていますが、食用としては1%くらいでとても少ないのです。大半は、家畜の飼料・その次は加工品として使われます。とうもろこしからできる加工品もいろいろあるので、調べてみるとおもしろいかもしれませんね。

## 5年生種まき



5月22日に5年生が種まきをしました。すくすく農園の田んぼでは、地域の方から苗をいただいて植えていますが、『自分達で育てる』ということを実感してほしいので、今年はおみ種から自分達で芽を出し、その苗をペットボトルで育てます。(セイロやおみ種の準備は福本さんにご協力いただきました。)

おみ種を土にまき、上から土をかけ、最後に水をかけて、日光で温まり芽が出るようにシートなどをかけてすくすく農園に置きました。

田んぼで育てる米とペットボトルで育てる米の比較をし、より学びを深めることができるといいですね。

